

2018年度 自己点検・評価シート

基準11	教学ビジョン(4つのクオリティ)
------	------------------

*各組織が認識している「2017年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2017年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2018年度期首時点)	①2018年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2018年度の取り組みとその成果 ②2018年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●教学ビジョンの実現に向け、キャンパス・クオリティを向上させる取り組みが行われているか</p> <p>○各組織の長所・特色となるような取り組みの実施</p> <p>・エコキャンパス宣言への取り組み</p>	<p>[現状説明]</p> <p>創立110周年(2010年10月23日)にあたり、本学キャンパスに集うすべての者が、持続可能な社会の創造を自らの責任として自覚し、環境方針の下に、エコキャンパスの一層の推進を目指すことを宣言した。</p> <p>この宣言の実施・点検者としてエコキャンパス推進委員会が位置付けられ、年度計画を立て活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のゼミ活動を中心とした動きと、法人による設備投資の両方の側面から、活動を展開している。 ・国分寺キャンパスの一部が国分寺崖線にかかるため、これを保全することを念頭に活動を計画している。みどりの保全事業を予算化しており、毎年専門家による講習および、不要な樹木(外来種、倒木等)の伐採を行っている。基本的にボランティアを中心としてお金のかからない活動が行われている。新次郎池については手作りの案内板を手始めに魅力化の活動が着手されている。一方で、キャンパスの中心部では雨水浸透施設などの設備投資が行われ、地下水への配慮がなされている。 ・エネルギー使用量の削減については、従来は設備投資による削減を行ってきた。今後は分析を加え、どのような方法が削減効果が大いのかを見極め、使用方法などを見直す時期に来ている。手始めに長期休暇中に開館する棟を絞る呼びかけなどに取り掛かったところである。 ・ごみの排出量削減に関しては、ポスターによる分別の促進や、レジ袋の廃止、大学祭でのリサイクル容器の採用など削減に向けた努力を行っている。 ・たばこについては、ごみ削減以外にも、健康面でのリスクを強調し卒煙への啓蒙活動を行ったうえで、建物内完全禁煙を実施し、屋外での分煙施設を整備している。 ・数ある環境目標の実現にむけて大幅な改善は見られないものの、地道な活動に <p>[長所・特色]</p> <p>本学の特徴を生かした目標と自負している。</p> <p>特に「本学キャンパスに集うすべての者」を対象としたことが、視点として重要である。</p> <p>[問題点]</p> <p>環境方針の目標の中に、達成が難しい項目もある。活動の検証作業と、目標内容の検討と議論を、本学全体で行うことが必要になっている。</p> <p>エコキャンパス推進委員会のもとにかつては「エコミーティング」として、教職員有志と学生合同の実働を担う組織体があったが、主導してきた職員の異動や多忙化などの事情から事実上解散状態になってしまった。それゆえ、エコキャンパス推進委員会で提起する省エネなどの方針を職場等に周知徹底する主体が非常に限られていることが問題である。</p>	<p>目標①みどりと水のあふれるキャンパス</p> <p>新次郎池周辺をはじめとした崖線地域の保全に関しては、学生・教員・近隣住民の参加により年間3回の森林の管理作業・萌芽更新作業を行っている。専門家の助力を得ながら、崖線緑地内NO.1～9の9つの地点で継続的な植生調査を行い、管理作業の効果を確認する調査を継続している。</p> <p>また、新たな取り組みとして、崖線緑地を散策する人々が樹木や植物に親しめるように、個々の樹木・植物にプレートで名前と説明書きを掲示する活動を開始している。今年度中には50種ほどの木々などに掲示作業を完了する予定である。</p> <p>学内農園を活用して学生自身が野菜を育てる実践を進めており、今年度の夏のオープンキャンパス時には、畑のトマトを提供し、生協食堂で高校生に振る舞う予定である。秋には市内のお祭りにて、育てた里芋などを使った「東経汁」を地域の人々に振る舞う予定である。</p> <p>目標②低炭素型キャンパスをめざす</p> <p>今年度も実施内容を中心に評価し、具体的な数値目標は掲げない。設備投資は地絡過電圧継電機(OVGR)を導入すること、および器具の寿命が来たところからの地道なLED化に取り組む予定である。引き続き節電の呼びかけを行う。</p> <p>目標③キャンパスの「ゴミダイエット」</p> <p>廃棄物削減の取り組みとして、一昨年から取り組んでいる大学祭でのリサイクル容器(「リ・リバック」)の採用を進めている。これまでの反省を踏まえ、今年度は学園祭実行委員会及び生協と会合を重ね、模擬店で使用するバック類をすべて生協を通して発注してもらう方式を採用し、置き換え可能なすべての容器をリ・リバックに変更して使用してもらう方向で検討を進めている。</p> <p>目標④「環境の時代」の人材育成をめざすキャンパス</p> <p>誰もが快適に過ごせる正常なキャンパスづくりのために、引き続き喫煙率の低下をめざし、喫煙防止・卒煙教育を全学的に実施できる体制を検討する。</p> <p>達成度を測るための客観的な指標</p> <p>目標④ 学生・教職員の卒煙者数と喫煙率。</p>	<p>① 2018年度の取り組みとその成果</p> <p>目標①みどりと水のあふれるキャンパス</p> <p>崖線緑地の管理作業は、今年度も地域住民の参加を得て3回行った。専門家を招いた植生観察会も行うなど、地域との協働で崖線緑地を保全する関係が維持されている。また、「東経の森」の散策者が楽しめるよう、専門家の指導を受けながら、学生たちが独自に樹木や植物の紹介プレートを作成し、掲示した。</p> <p>学内農園を利用して育てた野菜は、11月の地域のお祭り(ぶんぶんウオーク)にて、「東経汁」として参加者に振る舞い、好評を博した。</p> <p>昨年度末～今年度始めに、崖線緑地の樹木(とくに大木)に関して、業者による強剪定(過伐採)をしてしまったことで、森の風景が大きく変貌した。この点の反省をふまえて今後森を育てていく必要があるが、老木となった大木などへの対策(強風等による倒木の危険除去)は他方で必要でもあり、そのバランスの維持が課題となる。</p> <p>一方、通常の取り組みとは別に「国分寺キャンパス第2期整備事業」の検討が本格化し、新次郎池周辺の整備が対象となった。自然を活かした整備方針を策定するとともに、整備のための水脈調査を行い、建物の位置決めに必要な地盤・水脈の情報、池の水確保の方策、井戸の位置決めの情報を得ることにした。これらは、エコキャンパス推進委員も参加している臨時プロジェクトである「緑と水作業部会」において取り扱い、今後整備計画の具体化が図られる見通しである。</p> <p>②2018年度の取り組み後の問題点(課題)</p> <p>目標①みどりと水のあふれるキャンパス</p> <p>「国分寺キャンパス第2期整備事業」にともなう新次郎池周辺の整備については、120周年事業として2020年に竣工しなければならず、短期間に決定しなければならない。その中で、学生や地域の意見をどれだけ採り入れることができるかが課題となる。9月に地絡過電圧継電器(OVGR)が設置され、2号館の発電型GHPの発電機能が稼働開始した。将来、太陽光パネルを設置するための下地ができた。今後は見なし低圧の解消にともない、契約電力を下げる予定である。</p> <p>→電気・ガスの消費量は年々増加傾向で2020年度を目前として、努力数値の実現が難しい状況にある。(電気は約8%減、ガスは逆に1割増)エコキャンパス宣言と、その年度末に起きた東日本大震災の記憶がある世代では節減意識が強かったが、最近では体調を重視する傾向にある。設備も増えており、猛暑など異常気象の影響もあり空調の運用費用の削減はやりにくい状況である。やみくもに節減を呼びかけるのではなく、規模に合ったエネルギー消費を考えていく時代になってきた。</p> <p>太陽光パネルの設置条件として、既存建物の屋上の強度を測っていく必要がある。現在計画がある6号館については、コストが下がってきたとはいえ、すぐに導入できる金額ではない。今後増設していく過程では、新築建物はキャンパス整備費用での導入が可能のため、盛り込んでいく働きかけが必要である。既存建物については、効率だけでは導入のきっかけにはならないため、エコキャンパスのシンボルとして目立つ位置からの導入を検討していくことになる。</p>	<p>A</p>	<p>添付ファイル参照</p> <p>エコ計画については当初委員会発足時の目標①～⑧を更に目標①～⑤に細分化して具体的に項目を挙げて綿密に取り組んでいる。その検討のために小委員会も設けて議論している。</p>	<p>次年度は、見直し後の教学ビジョン(ロードマップ)をPDCAの対象としてください。</p>

2018年度 自己点検・評価シート

基準11	教学ビジョン(4つのクオリティ)
------	------------------

* 各組織が認識している「2017年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
 * 2017年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2018年度期首時点)	①2018年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2018年度の取り組みとその成果 ②2018年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
			<p>目標③キャンパスの「ゴミダイエット」 今年度は学園祭実行委員会、大学生協との事前の打ち合わせを密に重ねて準備してきた結果、さまざまな容器の形のリ・リパックをサークル等の模擬店に提供することが出来、結果的に採用が大幅に伸びた。ゴミ集積所のゴミ箱も一新し、分別・リサイクルを徹底できた。リ・リパックの回収コーナーでは、祭り参加者も楽しみながらフィルムを剥がす作業に協力してくれていた。最終的に、昨年度の3800枚を大幅に上回る7900枚を回収し、不燃ゴミの大幅削減に貢献した(回収後のリ・リパックは東北の企業に送り、現地で障害のある方々の仕事づくりの一環として、リサイクル・再製品化がなされる)。</p> <p>② 2018年度の取り組み後の問題点(課題) 目標① 昨年度末～今年度始めに、崖線緑地の樹木(とくに大木)に関して、業者による強剪定(過伐採)をしてしまったことで、森の風景が大きく変貌した。この点の反省をふまえて今後森を育てていく必要があるが、老木となった大木などへの対策(強風等による倒木の危険除去)は他方で必要でもあり、そのバランスの維持が課題となる。</p> <p>目標③ 今後の課題として、リ・リパックは大学生協で屋に販売する内製弁当に採用されるよう働きかけていく。他方、大学祭におけるリ・リパックの採用と回収作業については、これまではエコキャンパスゼミが全面的に協力してきたが、次年度からは学園祭実行委員会が主導して行ってもらおう働きかけていく。これまでの活動の積み重ねをもとに学園祭実行委員会が主体的に継続してもらえかが課題となる。</p> <p>目標④「環境の時代」の人材育成をめざすキャンパス(卒煙教育) ①2018年度の取り組みとその成果 目標④ 「タバコ」喫煙のリスクについて、大学案内パンフレット「ようこそエコキャンパス東京経済大学へ」を改訂した。内容を充実させると共に、分かりやすさを重視した。喫煙しないことの重要性を啓発するために、新入生全員に配布した。</p> <p>②2018年度の取り組み後の問題点(課題) 目標④ パンフレット配布で啓発した対象が新入生なので、2年生以上の学生に内容を伝える取り組みが必要である。喫煙防止・卒煙教育をどのようなルートで、どのような機会に伝えるのか、全学的に実施する仕組みについて検討する必要がある。 客観的指標については、調査方法と資料入手方法等の具体化ができなかったため、検討作業を行う必要がある。</p>			